公益社団法人 静岡県山林協会

森と人。

2026年
430
11月15日

森林を守り、育て、活かし、豊かな森を未来に引き継ごう



■表紙写真　題　名：「湖畔の紅葉」　撮影地：富士宮市田貫湖　撮影者：鈴木 鐵司（菊川市）

本誌のバックナンバーは、静岡県山林協会ホームページでご覧いただけます。
ホームページには、林業への就業を考えている方の参考になる記事も掲載しています。
URL：https://www.moritohito.jp

INDEX

2-3 **地域の取組**（伊豆市林業･木材関係連絡協議会）
伊豆市で挑んだ「森林の集約化モデル地域実証事業」

4 **支部だより①**（小山町 林業振興課）
もったいないがつないだ精油づくり

5 **支部だより②**（浜松市 林業振興課）
つながりから生まれる、天竜林業のイノベーション

6 **県庁だより**（くらし･環境部 環境局 環境ふれあい課）
森林環境教育の推進に向けて

7 **本部情報**
国への要望活動
静岡県林業者大会in天竜の開催

8 **本部情報**
林業への就業支援の取組

地域の取組

伊豆市で挑んだ「森林の集約化モデル地域実証事業」

伊豆市林業･木材関係連絡協議会

はじめに

森林の経営管理を効率的かつ持続的に行うには、森林を集積･集約化することが重要です。県内では、“市町と森林組合などの林業経営体との協議による経営管理の集積･集約化の取組”など、森林経営管理制度に基づく新たな取組が行われています。(森と人 2026.9.15 429号「県庁だより① 県森林計画課:森林の集積･集約化に係る取組の紹介」参照)

伊豆市では、令和7年2月末に「伊豆市林業･木材関係連絡協議会」(以下「協議会」)が設立され、令和7年度に「森林の集約化モデル地域実証事業」(以下「モデル事業」)が行われました。協議会の事務局としてモデル事業に取り組まれた静岡県森林組合連合会(以下「県森連」)調査課の永田貴嗣氏にお話を伺いました。



▲永田氏

集積･集約化を支える県森連調査課

まずは、県森連の調査課がどのような仕事をしているのかを伺いました。現在は9名体制で、環境税推進事業、地籍調査事業などを担っています。「環境税推進事業」は、市町から業務を受託して森林経営管理制度関係の調査を行うもので、取組の進め方の相談対応に始まり、森林整備方針と実施計画の作成、所有者の意向調査、現地調査、経営管理権集積計画(以下「集積計画」)の立案までを行うことができます(部分的な業務受託のみも可)。これまでに関わった市町は23。令和7年度の集積計画作成業務実績は、調査面積約360ha、調査筆数約400筆、所有者数200人に上ります。各市町からの依頼業務に違いはありますが、これまでに多くの市町の集積計画作成の力になってきたことがわかります。

もう一つの柱である地籍調査は、山林部の境界調査です。永田さんは、以前は地籍調査の業務に携わっていたため、環境税推進事業でも集約化の際に地籍調査で得た境界調査のノウハウが役立っていると言います。

伊豆市のモデル事業

伊豆市で行われた「森林の集約化モデル地域実証事業」は、令和8年4月施行の森林経営管理法の改正を見据え、「集約化構想」に繋げていくイメージから協議会を立ち上げ進められました。これまでの経営管理制度では、市町が森林整備の方向性等を決めていましたが、集約化構想では、企画段階から市町だけでなく地域の経営体が加わることで、広い範囲で効率的な林業経営ができるという狙いがあります。

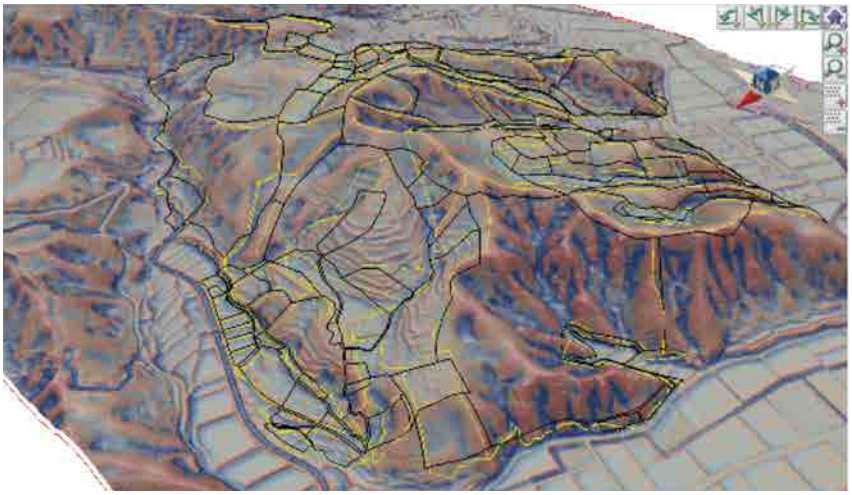
モデル事業を機に設立した「伊豆市林業･木材関係連絡協議会」の構成員は伊豆市、田方森林組合、㈱天城農林、静岡県東部農林事務所、静岡県森林組合連合会。行政と複数の経営体が参加する協議会が事業を進める形を取ったことで、将来的な集約化構想に繋がる土台を作ることができたと言えます。意向調査から集積計画の同意取得までの期間が約1年間という非常にタイトなスケジュールの中での取り組みになりましたが、モデル事業では主に「整備方針の協議」「点群データの活用」「オンライン同意取得」の3つに挑戦することができました。



▲協議会の様子

整備方針の協議

令和7年8月に伊豆市上白岩･城地区の33.5ha(所有者数48人、筆数110筆)に意向調査を実施しました。郵送とオンラインを併用して実施し、返信の無い所有者への電話連絡や訪問等を経て、10月末までには面積にして98%の回答を得ることができました。意向調査の結果を元に、協議会にて整備方針について意見を出し合いました。結果としては、地形や林道等の条件から採算性が厳しく、針葉樹の保育間伐を実施することで防災目的の森林整備を行う方針に決定しましたが、複数の事業体が意見を出し合うことで様々な側面から整備方針を検討することができ、また、スピード感を持って決定に至る利点が感じられました。



▲立体図(黒線:林地台帳データ 黄線:地形、航空写真等を参照し推定した筆界)

点群データを活用した筆界や森林資源の把握

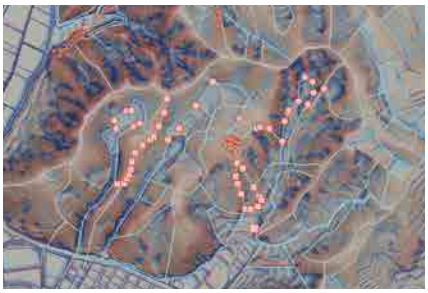
静岡県がオープンデータとして提供している点群データを、協議会で購入した解析ソフト「AssistZ※」に読み込み、解析してみました。点群データからCS立体図を作成でき、3Dで様々な方向、角度から地形を把握することができます。まずは、“筆界推定”への活用です。この立体図（前頁参照）に林地台帳データを被せると（画像黒い線）、地形とのズレが確認できます。

そのため、地形や林地台帳に加えて、公図、森林簿、森林計画図、航空写真を参照し、推定される境界線（画像黄色線）を引いていきました。



▲重ね図（林地台帳地図と航空写真）

線を引く作業は2Dの方が進めやすかったため、永田さんは「Assist8」というGISソフト上でデータを作成し、そのデータをAssistZに取り込んで立体図に筆界推定線を被せています。これらの作業で推定できない箇所は現地を確認します。現地調査に際しては、公図と現地のズレを予め整理してから現地に入ることや、GNSSを活用することで想定した筆界に迷いなくたどり着けるため、効率的な調査が行えました。筆界推定図には、さらに、現地踏査で筆界特定に役立ちそうな情報（杭や樹種界、テープなどの目印、境木など）をGNSS測量で位置情報を取得して表示します。



▲筆界推定 現地踏査による情報表示

なお、保育間伐の施業範囲の外縁のみを確定することで（内側の所有界は確定しない）省力化を図りました。今回は行いませんでしたが、利用間伐により所有者への還元が生じる場合には、所有面積等によりそれを按分する方法が考えられます。

次に、「AssistZ」を活用して行った解析は主に“資源量把握”です。AssistZの解析結果と県の解析データ、過去に行った現地プロット調査の3種の数値を比較しました。なお、AssistZでは樹種を自動で判別できず、森林簿を参照して設定する必要があります。差はまちまちですが、現地プロット調査より検出本数が少なめに出る傾向がわかりました。この様に、現状では調査方法により差違が生じるため、AssistZの特性等を踏まえるために今後も検証を行うとともに、適宜現地調査を踏まえた補正を行うことで精度を高める必要があると言えます。永田さんとしては、施業エリアの検討として、生産適地の選定など調査地選定の事前参考資料には大変有効とのこと。

また、AssistZでの解析の良い点としては、条件を自由に設定できる点が挙げられます。今回の資源量把握では、ソフトの推奨値（樹木間隔2m、検出条件10mなど）を採用していますが、設定における知見が蓄積されてくれば精度の向上につながります。加えて、自ら解析するので、必要な範囲の情報をリアルタイムに把握することができます。

※AssistZ:点群データを元に森林の材積推定や造林補助申請図面等を作成できる株式会社ジツタのソフトで、地盤データから作業道の設計シミュレーションも可能。

オンライン同意取得

令和7年12月中旬から翌年1月下旬にかけて、集積計画の対象となる所有者23人を対象に、オンラインで同意取得を試みました。所有者にはQRコードを記載した案内文と操作説明資料を郵送。所有者がサイトへアクセスするとオンライン上で自分の土地・集積計画を確認でき、電子サインで同意します。実施前はオンラインでの同意取得は不安がありましたが、結果は23人中20人からオンラインでの回答を得ることができました。高齢の森林所有者でもオンライン回答への拒否反応は無いことがわかりました。回答期間中に年末年始を挟んだため、帰省されたご家族が補助された可能性も考えられますが、今後の活用も見込める回答率だったと言えます。しかし、システムの利用料コスト等の収支を図るには、大規模な面積や所有者数を対象とした業務を行う必要があるという課題が残りました。

終わりに

永田さんは協議会による取組について、様々な関係者の情報共有、意向把握、アイディアの活用が行われることにより適当かつ具体的な整備方針等が作成でき、また、意向調査から森林整備までの期間短縮も図れるなど、効果的な手法だと感じています。協議会会長を務める田方森林組合の岡田悦郎組合長は、「今後も様々な関係者が集まり、連携した取り組みは続けていきたい」との意向を示しており、今年度から事務局を引き継いだ伊豆市とともに、さらなる取組を進めることとしています。

藤枝市においても同様の取組が始まっていると伺います。各地域の特性、状況を踏まえた推進体制や新技術を活用した調査手法などにより取組が進められ、森林集約化の効果的な手法が確立されるとともに他地域への普及が図られることが期待されます。集約化構想に向けた今後の連携の動き、成果が注目されます。



▲資源量把握等エリア（□:現地プロット調査位置）

支部だより①

もったいないがつないだ精油づくり

小山町 林業振興課　八木 資恭

地域おこし協力隊として小山町に移住したきっかけや精油づくりの取組などについて紹介いただきました。

移住のきっかけと小山町の印象

2024年秋、私は総務省の移住・地域振興制度である「地域おこし協力隊（林業従事者）」として、岡山県から小山町へ移住してきました。

移住を考えたきっかけは、以前1週間ほどかけて出掛けた紀伊半島のツーリングでした。雄大な自然に囲まれた集落に魅了され、旅を終えた後に「この先、まだ見ぬ世界を知らずに年を重ねるのはあまりにもったいない」という思いが湧き上がってきたのです。

それから地方移住に向けて動き出し、地域おこし協力隊として小山町とのご縁をいただきました。静岡県の北東端に位置し、神奈川県・山梨県と接するこの町は、首都圏に近いせいか、想像していた以上に活気にあふれていました。そして何より驚いたのは、富士山との距離感です。目の前にそびえ立つ圧倒的な存在感と美しさには、未だに慣れることがありません。道端を歩けばいつも側溝を流れる豊かな水の音が聞こえ、水道水のおいしさにも感動しました。富士山の恵みである豊かな水と緑に包まれたこの環境に触れ、ここに来て正解だったと確信しました。



精油づくりとの出会い

小山町での暮らしが始まったものの、林業はまったくの未経験で、地域おこしの熱意が空回りする日々が続いていました。

そうした中、精油づくりの蒸留釜（水蒸気蒸留装置）を持つ製材所の社長さんとの縁があり、なんとご厚意で蒸留釜と工房を丸ごと無償で使わせていただけることになったのです。

枯れゆく葉っぱが贅沢品に

私が手掛けている精油の原料は、町内で伐採されたヒノキやスギの葉です。しかし、最初から葉に目を向けていたわけではありません。当初は製材所から出るチップを使って蒸留していました。

転機となったのは、町有林の伐採現場に体験参加した日のことです。伐倒されたばかりの木の梢に青々と茂る葉を見て、「これを蒸留したらどうだろう」と思い立ち、林地に捨てられた膨大な葉の一部を摘んで持ち帰りました。その結果、葉の方が収率も高く、柑橘系を思わせる爽やかな香りも悪くありませんでした。

もっとも、蒸留釜に入れることができるのは、ほんの一部にすぎません。残りは結局、その場で朽ちていきます。全部を精油に変えられたらと思いながら、もったいないという気持ちから毎回欲張って、釜に入りきらないほどの葉っぱを集めています。

枯れるのを待つだけだった葉っぱが、ちょっとした贅沢品に生まれ変わる瞬間は、何度経験しても嬉しいものです。



▲伐採現場でヒノキの葉を集める筆者



▲水蒸気蒸留装置

さいごに

精油づくりを始めて1年が経ち、データや経験も少しずつ蓄積してきました。地域おこし協力隊としての任期はあと1年。地域の多くの方々に支えられて出来上がった精油を、町内の宿泊施設や富士登山の観光客向けの商品として形にしていきます。

思えば、ツーリングをきっかけに感じた「もったいない」という気持ちが、私を小山町まで連れてきました。そして今、伐採現場で葉を拾い集めながら感じる「もったいない」が、次の一歩を後押ししてくれています。

同じ言葉に人生を二度も動かされてしまったようです。

支部だより②

つながりから生まれる、天竜林業のイノベーション

浜松市 産業部林業振興課　杉浦 健太

林業イノベーションを加速させ、儲かる天竜林業の構築を目指す取組について紹介いただきました。

はじめに

浜松市の林業は、外国産材や国内他産地との競争力低下や、従事者の減少・高齢化という課題に直面しています。本市では、これらの課題を踏まえて、「林業イノベーション」を加速させ、「儲かる天竜林業」の構築を目指し、令和7年2月から「天竜林業イノベーションスクール」を開催しています。地域の若手林材業関係者を対象に、講義やワークショップを実施する本スクールは、本地域の林業の競争力強化、人材育成、担い手確保に向けた重要な取組となっています。

天竜林業イノベーションスクールとは

スクールに向けて、まず、産地全体の戦略設計、営業手法、情報発信、川上・川下間の情報共有、異業種との協業、人材育成など、イノベーション創出に向けた課題を抽出しました。その上で、「持続可能な天竜林業の実現」をあるべき姿として掲げ、「材を高く売る」「生産量を増やす」「担い手確保と人材育成」の3つの戦略の必要性を整理しました。

さらに、専門家や各地のトップランナーを招いた全8回の講義・ワークショップを通じて、収益性の低下、再造林の停滞、サプライチェーンの情報分断、人材不足などの課題について学び、解決策を検討しました。学びを踏まえ、参加者が「人材育成」「業務効率化・DX」「地域連携」「販売戦略」の4グループに分かれ、SNS等を活用した魅力発信やキャリアパスの整備、サプライチェーンのDX化、川上から川下の連携強化、天竜材の環境価値の可視化など、持続可能な天竜林業の実現に向けたアクションプランを取りまとめ、発表しました。



▲天竜林業イノベーションスクール修了証授与式

新たな協働への発展

スクールの大きな成果は、若い世代を中心とした林業関係者が、会社の垣根を越えて集まり、天竜林業が抱える課題や将来像を共有し、その解決に向けたアクションプランをともに考える場が生まれたことです。参加者それぞれの立場や経験を生かした多角的な提案から、今後の林業の持続的な発展に向けた具体的な示唆が得られました。

さらに、スクールで生まれたつながりは、学びの場にとどまらず、アクションプランを基にした新たな協働へと発展しています。その一例が、今年8月1日に開催された「TENRYU FOREST×-JAZZ 2026」です。製材工場を会場に行われた本イベントには、県内外から約200名が参加し、Instagramでも約2.8万回の閲覧につながりました。音楽、木、食、学びを入口に、林業関係者だけでなく多様な人々が交流する場をつくることで、天竜材や林業の魅力をこれまでとは異なる視点で発信し、新たな関係人口創出や次世代の担い手確保への可能性が広がりました。



▲TENRYU FOREST×JAZZ 2026

終わりに

天竜林業が持続的に発展していくためには、森林の適切な管理や木材生産を担う若い力の確保が不可欠です。林業は長い年月をかけて森林を育て、地域の環境や産業を支える仕事であり、次世代へつなぐ大きな役割を持っています。若者が林業に魅力や将来性を感じ、地域に定着できる環境を整えるとともに、現場で働く若者同士がつながり、林業の魅力や可能性を積極的に発信することが重要です。そうした発信が新たな若者の就業を呼び込み、担い手の裾野を広げる好循環を生み出すことが期待されます。

県庁だより

森林環境教育の推進に向けて

くらし・環境部 環境局 環境ふれあい課

県内の森林環境教育の実施状況や森林環境教育推進のための取組について紹介いただきました。

はじめに

森林環境教育とは、森林内での体験活動等を通じ、森林と私たちの暮らし、あるいは森林の持つ多面的機能について理解・関心を深めることを目的とした取組です。将来にわたり、豊かな森林を守り、育て、活かすことができる人材を育成することにもつながっています。

県内市町における森林環境教育の実施状況

静岡県内では、令和7年度末時点で35市町のうち21市町で森林環境教育が実施されています。その内容は、間伐体験、森林散策、森林ESD出前授業、木育等、多岐にわたります。また、園児、小学生から一般まで幅広い世代を対象とした取組が行われています。

今回は、県環境ふれあい課で実施している森林環境教育の推進に向けた取組を大きく2つ紹介します。



▲森林散策の様子

1. 森林環境教育指導者の養成

森林環境教育指導者とは、森と人を繋ぐスキルを持ち、森林環境教育を行う上でのリーダーとなる人材を指します。

県では令和元年度から令和7年度まで「森林環境教育指導者養成講座」を開催してきました。受講生は、年間10回の講座を通して、森林環境教育を行う上で必要な知識やインタープリテーション力、プログラムの企画・運営力などを身に着けました。令和7年度末時点で158名が本講座を修了しています。



▲森林環境教育指導者養成講座

また、県では養成講座の修了生等を「静岡県森林環境教育指導者」として認定しています。このうち、掲載を希望する指導者を「静岡県環境学習ポータルサイト『しずおか環境ラボ』」で紹介しています。

本サイトは、地域おこし協力隊や木のおもちゃ美術館の学芸員等、多様な特技や経験を持つ方々を紹介しています。森林環境教育の実施にあたり、講師や協力者をお探しの方は、是非御活用ください。

◀静岡県環境学習ポータルサイト「しずおか環境ラボ」指導者掲載ページ

令和7年度をもって本講座の修了生を150人とするという目標を達成したことから、令和8年度からは、こうした指導者向けにスキルアップ研修を開催しています。野外で活動する上で必要となる安全管理やプログラムの企画・運営について知識や技術を高めるとともに、指導者が自信を持って活動できるように支援しています。

2.市町への支援

令和7年度より開始した「森林環境教育市町支援事業」では、県環境ふれあい課と委託先の環境教育団体が連携し、市町における森林環境教育への理解を深め、地域での取組を促進させることを目的に取り組んでいます。

令和7年度は、賀茂・東部地域を中心に10市町にヒアリングを行い、そのうちの7市町に対して個別支援をしました。

ヒアリングでは、森林環境教育の実施状況や課題、今後の展望について伺っています。その上で、それぞれの市町の状況や希望に応じた個別支援を行っています。

支援内容としては、教育委員会への説明支援や新規活動フィールドの視察、既存プログラムの改善案の提案などを行っています。これにより、市町職員の企画・運営負担の軽減や指導者の紹介など、継続的に取り組める仕組み作りを支援しています。

森林環境教育の企画・運営等でお困りの市町担当者の方は、是非御活用ください。

おわりに

今後も、市町や森林環境教育指導者、環境教育団体等と連携しながら、森林環境教育の推進に取り組んで参ります。

森林環境教育に関して、お困りごとなどございましたら、県環境ふれあい課まで御連絡ください。

静岡県環境ふれあい課
電話番号　054-221-2848

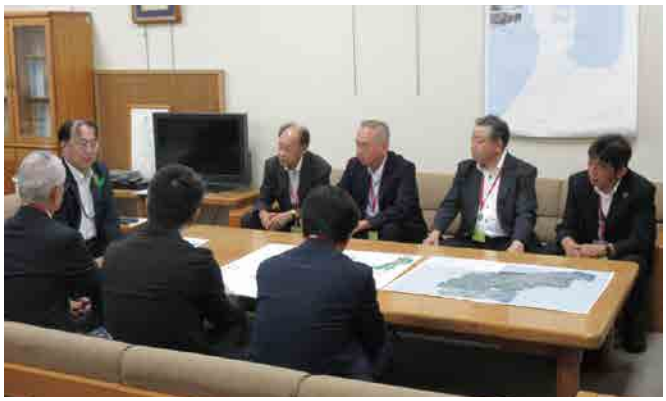
本部情報

国への要望活動

1都8県の協会で構成する「関東甲静地区治山林道協会連絡協議会」では、9月11日、令和9年度治山事業・林道事業の予算確保などについて、林野庁長官などに要望を行いました。



▲長﨑屋林野庁長官への要請



▲齋藤森林整備部長への要請

静岡県林業者大会in天竜の開催

静岡県林業研究グループ連絡協議会は、9月26日(土)に浜松市中央区田町の新川モールで、「静岡県林業者大会in天竜」を開催しました。今回は天竜林業研究会が中心となり、林業の魅力を多くの方々に知っていただくため、記念イベント「天竜林業まるごと体験フェス」を銘打って、林業研究会員等のプロによるチェーンソー競技に加え、丸太切りや木工等体験、木製品やジビエ、ヤマメ等の販売ブースなどが出展され、来場された千人近くの皆様に、天竜の魅力を丸ごと楽しんでいただきました。



▲参加者記念写真



▲開会式　来賓祝辞(中野浜松市長)



▲チェーンソー競技



▲木工ブース

本部情報

林業への就業支援の取組

9～10月の主な取組は以下のとおりです。

○しずおか森林（もり）の仕事ガイダンス

就業相談会「第2回しずおか森林の仕事ガイダンス」を10月18日（日）に浜北文化センター（浜松市内）で開催しました。県内外から19名の参加があり、新規採用を予定している経営体17社やハローワーク、県林業振興課などが、仕事の内容などの説明・相談に応じました。

また、森林で働く若手技術者によるランチトークも開かれました。



▲仕事ガイダンスの様子



▲ランチトークの様子

○林業就業支援講習

10月5日から17日(11日間)に、「林業就業支援講習」を県森林・林業研究センター(浜松市浜名区)等で実施。12名の方が受講し、チェーンソーの資格や林業技術等を習得しました。



▲林業就業支援講習

○マイナビ農林FEST

9月12日（土）に東京都内で開催されたマイナビ農林FEST（主催：株式会社マイナビ）に静岡県林業就業相談窓口ブースを出展し、県担当者とともに林業の仕事の内容など説明・相談に対応しました。



▲静岡県林業就業相談窓口ブース

11～1月は、下記のとおり仕事見学会等を予定しています。
詳細は、しずおか林業就業支援サイト「森林（もり）ナビ」でご確認ください。 https://www.morinavi-shizuoka.net/

①第2回しずおか森林の仕事見学会
内　　容：伐採現場や製材施設などを見学します。
日　　時：令和8年11月28日(土)
場　　所：富士市
募集定員：15名程度
募集期限：令和8年11月10日（火）

②第3回しずおか森林の仕事見学会
内　　容：伐採現場や丸太市場、製材施設などを見学します。
日　　時：令和8年12月19日(土)
場　　所：島田市
募集定員：15名程度
募集期限：令和8年12月11日（金）

③第3回しずおか森林の仕事ガイダンス
内　　容：林業への就業を希望する方を対象とした就業相談会です。
日　　時：令和9年1月16日(土)
場　　所：静岡市内（グランシップ）

「森と人」 公益社団法人 静岡県山林協会
編集・発行　静岡市葵区追手町9－6　県庁西館9F
TEL:054-255-4488/FAX:054-255-4489

FSC www.fsc.org
ミックス
紙｜責任ある森林管理を支えています
FSC® C009166

第43回
しずおか森林写真コンクール受賞作品



最優秀賞

湖畔の紅葉

鈴木　鐵司（菊川市）　撮影地：富士宮市田貫湖



審査講評

審査委員長
大角　勝

平成26年～令和7年の審査委員長を担当されました竹林喜由先生が退任されました。永い期間、審査委員長を担当されたことに心より御礼申し上げます。

第43回より審査会に参加いたしますが、永く継続されている「しずおか森林写真コンクール」が、「森林の大切さ」「山で働く素晴らしさ」などについて多くの方々に関心をもって頂けるコンクールにしていきたいと思います。

今回の応募総数238点（応募人数77名）と（昨年311点、106名）となっています。審査会は9月17日に開かれ、8名の審査員により厳正な審査が行われ、下記のとおり入賞作品が決定いたしました。

最優秀賞（静岡県知事賞）は、**鈴木鐵司氏の「湖畔の紅葉」**に決定しました。

「紅葉狩り」は多くの人を魅了する秋のイベントです。作品は田貫湖湖畔の紅く染まった紅葉を朝陽のサイド光で捕らえ立体感が強調され、湖面に映る紅葉も共に美しい色彩で表現されています。秋の素敵な写真の一枚になりました。

特　選（静岡県山林協会長賞）は、**河合誉士氏の「迫力」、伊賀誠氏の「森林を抜けて」**、同（静岡県グリーンバンク理事長賞）**高瀬幹雄氏の「待」**に決定しました。

「迫力」林業に携わる人を撮った作品が多く応募されました。応募された中でこの作品は最初から目に止まりました。逆光気味のサイド光に人物が浮き上がり、チェーンソーで切られた木くずが舞い上がるさまは写真のタイトルどおりの迫力のある作品になりました。

「森林を抜けて」大井川鉄道井川線は千頭駅から井川駅まで25.5ｋｍを結ぶ観光鉄道です。南アルプスの自然とスリル満点の絶景を堪能でき、沿線には美しい森林が広がり、列車の中で森林浴を味わうことが出来ます。この作品は私達を"森林浴を味わおう"と誘っている様な一枚なりました。

「　待　」シカの個体数増加で林業に深刻な影響を及ぼしています。作品は植栽木の苗木保護カバーが用いられた光景です。こうした光景は全国どこでも見られ、この問題の抜本的な解決が課題となっているようです。作品はこうした事態の啓発活動の一枚になっています。

準特選（静岡県山林協会長賞）は、**相羽強氏の「水鏡に映る森」、宮崎泰一氏の「富士ひのきの伐採」、丸山朋夫氏の「しずおか系森林の惑星」、岩浅利泰氏の「天を仰ぐ命の詩（うた）」**、同（静岡県グリーンバンク理事長賞）**軒村政春氏の「森の匠」**に決定しました。

「水鏡に映る森」水面に映る紅葉の森は美しい幻想的な風景になり、シンメトリーの構図は写真に安定感を与えています。作者は撮影ポイントのロケハンを実施して、天候、撮影時間帯を確認することで作品のクオリティーの向上につながったと思います。

「富士ひのきの伐採」前景に伐採されたヒノキやスギ、中景にヒノキ林、遠景に富士山と3分割の構図で捕らえています。富士山の山麓には多くの植林された豊かな森林を多く見ることができます。伐採された山には植林され、次の世代に継承されます。この繰り返しが森林の健全な環境保全となります。

「しずおか系森林の惑星」宙玉（そらたま）レンズを使用し、合成なしの一枚写真です。みどりの美しい風景を宙に浮かぶ球体に閉じ込め、森林の色彩を鮮やかに仕上げていて、幻想的な面白い写真表現になっています。

「天を仰ぐ命の詩（うた）」森へ入ると空気変わり、木々の間から差し込むやわらかい光が、人々がリラックス効果を感じることができます。作者もそれを感じて森を歩きこの大木と出会い、見上げました。タイミングよく飛来した鳥を入れたことが良いアクセントになりました。

「森の匠」森林での伐採作業を力強く捕らえた情景です。普段、目にすることがありませんが、森林でどのように木が伐採されるのか作業員の力強い動作から、我々にリアルに伝わる写真になっています。

この他に入選20点が選ばれましたが、いずれも力作のすばらしい作品でした。来年も多数の作品の応募を期待いたします。



特 選

迫力

河合　誉士(浜松市)

撮影地：浜松市浜名区引佐



特 選

森林を抜けて

伊賀　誠(島田市)

撮影地：静岡市葵区井川



特 選 静岡県グリーンバンク

待

高瀬　幹雄(富士宮市)

撮影地：富士宮市



準特選

水鏡に映る森

相羽　強(周智郡森町)

撮影地：周智郡森町(小國神社)



準特選

富士ひのきの伐採

宮崎　泰一(富士市)

撮影地：富士市大淵



準特選

しずおか系森林の惑星

丸山　朋夫(横浜市)

撮影地：駿東郡清水町柿田川公園



準特選

天を仰ぐ命の詩(うた)

岩浅　利泰(御殿場市)

撮影地：御殿場市東田中(秩父宮記念公園)



準特選 静岡県グリーンバンク

森の匠

軒村　政春(富士市)

撮影地：富士宮市　白糸北

入選



刃は命
神﨑　珠実(島田市)
撮影地：島田市伊久美



涼を求めて川遊び
小松原　清(浜松市)
撮影地：浜松市浜名区滝沢



木の命を頂く
大畑　舞優子(島田市)
撮影地：島田市相賀



朝陽を浴びて
山下　多津美(静岡市)
撮影地：裾野市水ケ塚



秋澄む富士
高瀬　理絵(富士宮市)
撮影地：富士宮市 西臼塚



花の咲く村
鈴木　信子(周智郡森町)
撮影地：天竜区佐久間町和泉



星降る棚田
藤井　昭浩(賀茂郡松崎町)
撮影地：松崎町石部棚田



杉林の光芒
永田　雅一(富士宮市)
撮影地：富士宮市



何時かは美林に
飯田　政巳(磐田市)
撮影地：周智郡森町三倉(旧三倉小学校近く)



森の中のオブジェ
杉本　昌弘(藤枝市)
撮影地：島田市川根町抜里

森と人。

入選



秋散歩
手塚　光次（掛川市）
撮影地：浜松市浜北



川の見える林
篠田　光雄（愛知県）
撮影地：川根本町大間



光芒の彩
浅井　貴章（磐田市）
撮影地：周智郡森町　小國神社周辺



新緑爽快
上野　祐司（神奈川県）
撮影地：富士宮市西臼塚



石人の森
小笠原　敦（浜松市）
撮影地：浜松市浜名区引佐町奥山　方広寺



いるかな？カブトムシ
三島　千晶（下田市）
撮影地：下田市加増野



きこりの１㎜
西村　天（静岡市）
撮影地：株式会社フジイチの工場内



森に道を描く
酒井　泉（富士宮市）
撮影地：富士市須津山



朝陽
加藤　年一（富士市）
撮影地：富士市天間



森の奥に棲むもの
小沢　大介（藤枝市）
撮影地：東伊豆町片瀬

令和８年度
治山・林道等コンクールの優秀工事（11工事）

山林協会では、治山・林道・森林整備等工事の中で、優れた工事を顕彰し、施工技術の向上等を図る「治山・林道等コンクール」を毎年実施しています。

今年度も各県農林事務所から推薦をいただき、審査の結果、治山工事の部6件、治山木材使用工事の部1件、林道工事の部3件、森林整備等工事の部1件に対して山林協会長賞を授与することとし、10月29日(木)に静岡市内で表彰式を行いました。

表彰された工事は、急峻な地形や厳しい気象環境など施工条件が厳しい場所で、いずれも作業員の安全確保に十分配慮しながら、高い技術力を発揮された工事であり、工事関係者の皆様の日頃からの御努力の成果が表れていることが高く評価されました。

受賞の皆様

◎治山工事部門



斉藤土木 株式会社
賀茂郡河津町川津筏場



株式会社 川口組
熱海市熱海



三晃建設 株式会社
御殿場市東田中



株式会社 白鳥建設
静岡市葵区油山



株式会社 中山建設
焼津市小浜



有限会社 飯島建設
浜松市天竜区水窪町奥領家

◎治山木材使用工事部門



西伊豆貨物自動車 株式会社
賀茂郡松崎町雲見



公益社団法人 静岡県山林協会　TEL 054-255-4488　https://www.moritohito.jp

◎林道工事部門



土屋建設 株式会社
沼津市戸田



株式会社 齊藤組
裾野市須山



東静建設 株式会社
駿東郡小山町新柴

◎森林整備等工事部門



株式会社 西島土木
牧之原市静波ほか



表彰式

◎優秀工事一覧

部門	受注者名	施工場所	工事名
治山工事	斉藤土木 株式会社	賀茂郡河津町川津筏場	令和6年度治山(予防)天川沢工事
	株式会社 川口組	熱海市熱海	令和6年度治山(緊急)姫ノ尾工事
	三晃建設 株式会社	御殿場市東田中	令和6年度治山(復旧)西二の岡2工事
	株式会社 白鳥建設	静岡市葵区油山	令和5年度治山(緊急)観音沢工事
	株式会社 中山建設	焼津市小浜	令和7年度県土強靭化対策(治山)万坂(6繰越)工事
	有限会社 飯島建設	浜松市天竜区水窪町奥領家	令和7年度治山(復旧)押山沢工事
治山木材使用工事	西伊豆貨物自動車 株式会社	賀茂郡松崎町雲見	令和7年度治山(緊急予防)花沢工事
林道工事	土屋建設 株式会社	沼津市戸田	令和6年度農山漁村地域整備交付金土肥戸田線2工区工事
	株式会社 齊藤組	裾野市須山	令和6年度森林環境保全整備裾野愛鷹線工事
	東静建設 株式会社	駿東郡小山町新柴	令和6年度山村道路網整備金時線(6ゼロ債)工事
森林整備等工事	株式会社 西島土木	牧之原市静波ほか	令和6年度県単治山(保安林機能強化)牧之原市海岸防災林ほか(平準化)工事